

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
系 洲 理子			
授業形態：講義	ナンバリング：EEB3111102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	教育の理念や意義、目的、制度などの基本的概念について学び、それらが教育の歴史や思想を通して、どのように現れてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育について理解することができる。
授業の概要	教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷を通して教育の意義や目的、教育法規、教育制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育についても理解する。
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明、「教育」とは何か？ 授業の始めに講義概要及び評価基準について説明する。 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育をとおして改めて考える。 【事前学習】授業前にテキスト第1章 (pp. 9-19) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第2回 教育の目的 社会の中で営まれている「教育」と何か、その意義と目的について学ぶ。また、子どもの発達 の特性をふまえた教育の在り方、特に児童福祉と教育の関係について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 20-28) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第3回 人間の成長・発達：乳幼児期の特性をふまえた教育 子どもの発達に必要な環境とその要因、発達の基本的概念、愛着の形成について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章 (pp. 29-38) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第4回 子ども観と教育 社会の中で子どもをどのように捉えてきたか、子ども観の成り立ちと変遷について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 39-47) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第5回 教育的関係：教師の役割 教育における教師の役割と、求められる資質・能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章 (pp. 48-55) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第6回 教育内容と教育評価 教育を営む際に必要な「教育課程」、教育内容と教育評価について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 56-65) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第7回 教育の方法 教育方法の原理と、歴史、種類について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 66-77) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第8回 日本の教育制度 日本の教育制度について、戦前の教育制度と戦後の教育制度を理解する。また、現在の教育制度 の動向についても理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 78-86) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第9回 世界の教育制度 世界の教育制度について理解する。また、現在の世界の教育制度の動向についても理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp. 87-95) を読み、分からない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第10回 日本の教育の歴史 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解 する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 97-105) を読み、分からない用語は確認しておく こと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第11回 西洋の教育の歴史 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解 する。 【事前学習】授業前にテキスト第11章 (pp. 106-115) を読み、分からない用語は確認しておく こと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第12回 教育法規と教育行政 教育を行う際に必要な教育法規と教育行政のしくみについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第12章 (pp. 116-124) を読み、分からない用語は確認しておく こと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p>

	<p>第13回 教育する場所 子どもや人間の教育が行われるのは、どのような場所があるか理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第13章 (pp. 125-134) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第14回 生涯教育と生涯学習 学校教育を終えた後、個人は社会の中でどのように教育されるか、社会教育と生涯学習の視点から理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第15章 (pp. 145-151) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第15回 教育と現代の課題 現代社会の教育及び保育の課題について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第15章 (pp. 151-153) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 討議、グループワーク、発表</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> インターネット等を活用した調査</p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>石橋哲成 [編著] 『コンパクト版 保育者養成シリーズ 教育原理』 一藝社 2016年</p> <p>文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>ミネルヴァ書房編集部 [編] 2019年 『保育小六法2019 [平成31年版]』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【 】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 課題の提出は期限を厳守すること。レポートについては初回講義時に説明予定。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。</p>
オフィスアワー	<p>西研3-8 (糸洲研究室) : 毎週月曜日3限</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題及びレポートは、評価後に返却する。</p>

講義科目名称： 保育者論

授業コード：

英文科目名称： Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			
授業形態：講義	ナンバリング：EEB3211131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会における教職の意義や教員の役割・資質能力、職務内容等について理解することができる。特に乳幼児期の教育・保育に関わる幼稚園教諭や保育士になるために、幼稚園教諭・保育士の役割と倫理、制度的位置づけ、職務内容について学び、幼稚園教諭・保育士の専門性について考察し、理解することができる。
授業の概要	幼稚園教諭・保育士の役割や倫理、制度的位置づけ、職務内容(研修、サービス、身分保障等)について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解を深める。なお、保育所保育士としての実務経験を活かし、保育者の意義や役割、資質能力、職務内容等について、具体的な事例をふまえて講義する。
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明。「幼稚園教諭・保育士になる」ということ 授業始めに講義概要及び評価基準について説明する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。 【事前学習】シラバスを確認すること。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第2回 保育所保育士の仕事と役割 保育所保育士の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト序章(pp.13-22)、第1章(pp.23-25,29-33)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第3回 幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章(pp.25-25)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第4回 保育教諭の仕事と役割 保育教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章(pp.33-41)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第5回 教育・保育に必要な子ども理解 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第2章(pp.42-61)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第6回 幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章(pp.62-77)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第7回 職場で学び合う専門家 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章(pp.78-93)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第8回 特別支援教育・保育 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章(pp.94-100)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第9回 子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章(pp.101-113)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第10回 現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章(pp.114-127)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第11回 幼稚園教諭・保育士の職務：サービス、研修、身分保障 幼稚園教諭や保育士のサービスや研修、身分保障について学び、その職務を理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章(pp.128-134)を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第12回 幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。</p>

	<p>【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 134-137) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第13回 幼稚園教諭・保育士の権利 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 137-145) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第14回 専門職間及び関係機関との連携 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。 【事前学習】授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第15回 幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 175-198) を読み、わからない用語は確認しておくこと。 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 討議、グループワーク、発表</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> インターネット等を活用した調査</p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第3版』 みらい 2016年</p> <p>文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>ミネルヴァ書房編集部 [編] 『保育小六法2019 [平成31年版]』 ミネルヴァ書房 2019年</p> <p>その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。課題の提出は期限を厳守すること。</p>
オフィスアワー	<p>西研3-8（糸洲研究室）：毎週木曜日3限目</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題及びレポートは、評価後に返却する。</p>

講義科目名称： 教育社会学

授業コード：

英文科目名称： Sociology of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
長谷川 裕			
授業形態：講義	ナンバリング：EEM3232181		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	学校における教育実践と、その背景にある学校制度や社会全体のあり方との関係について、社会学的視点から把握する力の獲得
授業の概要	学校教師が執筆した教育実践記録をいくつか取り上げ、その背景にある学校制度や社会全体のあり方をも把握しつつ、それらと関連させながら、記録に描かれている実践の意味を読み解いていく。その中で特に、「授業計画」欄に記される事項についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、教育社会学とは何かについての説明</p> <p>第2回 「個人化」進展の中の子ども・若者の人間関係（地域社会の中の子ども・若者の人間関係、子ども・若者の人間関係と絡む問題を中心に学校の安全・危機管理を含む）</p> <p>第3回 「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容（子ども・若者の逸脱と絡む問題を中心に学校の安全・危機管理を含む）</p> <p>第4回 近代学校という制度の特質と、そこにおける教え－教えられる関係成立の原理的困難性（公教育制度としての学校制度についての理解を含む）</p> <p>第5回 教員の職場同僚集団と、教員の職業文化としての教員文化（公教育制度としての学校制度についての理解を含む）</p> <p>第6回 「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難（地域社会における子育ての変容についての理解を含む）</p> <p>第7回 「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から</p> <p>第8回 中間のまとめ</p> <p>第9回 流動的社会としての近現代社会と学校制度の社会化機能（公教育制度としての学校制度の機能、地域と学校の関係の変容についての理解を含む）</p> <p>第10回 流動的社会としての近現代社会と学校制度の選抜・人材配分機能（公教育制度としての学校制度の機能についての理解を含む）</p> <p>第11回 戦後日本社会とその下での若年雇用の特質（公教育制度としての学校制度の機能についての理解を含む）</p> <p>第12回 戦後日本の学校教育における労働・職業の位置づけ（公教育制度としての学校制度の機能についての理解を含む）</p> <p>第13回 戦後日本における「成長」指向と学校教育（公教育制度としての学校制度の機能、地域社会の教育機能の変容についての理解を含む）</p> <p>第14回 戦後日本における「成長」指向と子ども・若者の社会意識</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	授業中に適宜提示する。

参考書	久富善之・長谷川裕編 2008年 『教育社会学』 学文社
評価方法	小レポート（20%）、定期試験（80%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。
オフィスアワー	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。
課題に対するフィードバック方法	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。

講義科目名称： 教育社会学

授業コード：

英文科目名称： Sociology of Educatin

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
西本 裕輝			
授業形態：講義	ナンバリング：EEM3232181		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	教育にかかわるさまざまな事象を社会的に考察し自分なりの意見を持つことができる。
授業の概要	いじめ問題、学力問題、子ども、家族、教師など、教育にかかわるさまざまな事象について資料映像などを用いながらふれ、社会的な発想の仕方やものの考え方について解説する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明～教育事象を社会的に考察する</p> <p>第2回 不登校の社会学</p> <p>第3回 いじめの社会学～学校安全の観点から（学校保健安全に基づく危機管理に関する内容等を含む）</p> <p>第4回 学力の社会学</p> <p>第5回 学校の社会学</p> <p>第6回 家族の社会学～学校・家庭・地域の連携</p> <p>第7回 子どもの社会学</p> <p>第8回 幼児教育の社会学</p> <p>第9回 文化の社会学</p> <p>第10回 教師の社会学</p> <p>第11回 カリキュラムの社会学</p> <p>第12回 差別の社会学</p> <p>第13回 キャリアの社会学</p> <p>第14回 少年犯罪の社会学</p> <p>第15回 まとめ：ブレーン・ストーミング</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	特に指定しない
参考書	『入門・子ども社会学』 南本長穂・山田 浩之編著 ミネルヴァ書房 『どうする「最下位」沖縄の学力』 西本裕輝 琉球新報社
評価方法	小レポートの提出状況（20％）と、定期試験の成績（80％）に基づいて評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p>

	欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。
オフィスアワー	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。
課題に対するフィードバック方法	科目開設初年度が2020年のため、2019年度末に提示。

講義科目名称： 発達心理学

授業コード：

英文科目名称： Developmental Psychology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：講義	ナンバリング：EEU3121101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	子どもの発達に関わる心理学の基礎的知識を獲得し、発達の過程および特徴を理解することができる。また、子どもの学びの過程や特性について基礎的知識を獲得する。
授業の概要	子どもを理解するため、乳幼児期の心身の発達及び学びの過程や特徴を学ぶ。さらに、支援を要する子どもたちの発達を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義について 発達心理学を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】テキストpp. 8-14を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】発達心理学を理解することの意義についてまとめる。</p> <p>第2回 発達段階・発達課題について 発達段階と発達課題について理解する。 【事前学習】テキストpp. 82-87を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】発達段階と発達課題の意味をまとめる。</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因について 心身の発達に影響する外的・内的要因（遺伝と環境）の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】発達理論と発達を規定する要因についてまとめる。</p> <p>第4回 胎児期の発達について 胎児の発達を理解する。 【事前学習】テキストpp. 87-88を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】胎児の発達についてまとめる。</p> <p>第5回 新生児期の発達について 新生児の発達を理解する。 【事前学習】テキストpp. 88-90を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】新生児の特徴についてまとめる。</p> <p>第6回 乳幼児期の感情と自我の発達について 乳幼児期の感情と自我の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 28-38を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】自我の発達と感情の発達についてまとめる。</p> <p>第7回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達について 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 38-39を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】身体的機能と運動機能の発達についてまとめる。</p> <p>第8回 乳幼児期の知覚と認知の発達について 乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 40-51を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】知覚と認知の発達についてまとめる。</p> <p>第9回 乳幼児期の社会性の発達について 乳幼児期の社会性の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 51-54を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】社会性の発達についてまとめる。</p> <p>第10回 乳幼児期のことばの発達について 乳幼児期のことば性の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 55-59を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】ことばの発達についてまとめる。</p> <p>第11回 乳幼児期の基本的信頼感の獲得について 乳幼児期の基本的信頼感の獲得を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 62-67を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】基本的信頼感の獲得についてまとめる。</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論について 学びに関する理論を学ぶ。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】学びの理論についてまとめる。</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性について 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】学びの過程と特性についてまとめる。</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育について 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】学びを支える保育者の関わり方についてまとめる。</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解について</p>

	<p>支援を要する子どもたちの発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】支援を要する子どもの発達についてまとめる。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>新保育士養成講座編纂委員会（編） 2015年 『改訂2版 新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国 社会福祉協議会 その他担当者が準備します。</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	<p>定期試験50%、授業内レポート35%、受講態度15%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>事前学習と事後学習をしっかりと行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 2限目 大城研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールアドレスに返却します。</p>

講義科目名称： 特別支援教育論

授業コード：

英文科目名称： Theory of Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
田中 敦士			
授業形態：講義	ナンバリング：EEM3232171		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする多様な子ども一人一人が、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、子どもの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>
授業の概要	<p>1 発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達の理解 1) インクルーシブ教育システムの理念を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 2) 発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程 3) 様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難</p> <p>2 特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援の方法 1) 発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする子どもに対する支援方法 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容 3) 個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法 4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しての支援体制の構築</p> <p>3 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの把握や支援 1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難に関する実態把握の方法や組織的な対応 2) 高IQや異才等により特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難に関する実態把握の方法や組織的な対応</p> <p>以上の内容について、講義形式のほかにアクティブ・ラーニング形式も含めて実施する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、インクルーシブ教育システムの理念 【事前学習】 テキスト「通常学級での特別支援教育のスタンダード」(小貫悟ら著、東京書籍)のうちの第4-5章(p.93-231)の全ページをめくり、写真や図に着目してざっと読んでおきましょう。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第2回 特別支援教育に関する諸制度 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第3回 発達障害等の特別の支援を必要とする子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第4回 様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第5回 発達障害のある子どもに対する支援方法 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第6回 知的障害のある子どもに対する支援方法 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。</p> <p>第7回 肢体不自由、病弱のある子どもに対する支援方法 【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>

第8回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 視覚障害、聴覚障害のある子どもに対する支援方法</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第9回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第10回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第11回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しての支援体制の構築</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第12回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 特別支援教育支援員、SSW、SC等と連携しての校内支援体制の構築</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第13回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 チームとしての学校の在り方（アクティブ・ラーニング形式）</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第14回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの実態把握の方法と対応（アクティブ・ラーニング形式）</p> <p>【事前学習】 集中講義形式のため、第1回目に記載する。</p>
第15回	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。 高IQや異才等により特別の教育的ニーズのある子どもの実態把握の方法と対応（アクティブ・ラーニング形式）</p> <p>【事前学習】</p>
第16回	<p>【事後学習】 テキスト「通常学級での特別支援教育のスタンダード」（小貫悟ら著、東京書籍）のうちの第4～5章（p.93-231）の全ページをめくり、写真や図に着目してじっくり読みながら覚えましょう。授業中にすぐ対応できるスキルを育てることが大切ですので、繰り返し覚えるくらいまで読み返しましょう。</p> <p>定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	通常学級での特別支援教育のスタンダード（小貫悟ら著、東京書籍）
参考書	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領一平成29年4月告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）
評価方法	ミニレポート（50%）、定期試験（50%） 授業中に居眠り等、教員を指すうえで不適格な態度が発覚した場合には総合評価から1回につき10点マイナスとする。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【 】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p>

	<p>【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	100名規模の講義となりますが、できるだけグループディスカッションの時間も設けます。積極的に参加してください。ミニレポートの評価にはグループディスカッションの成果が反映される場合があります。
オフィスアワー	集中講義のため、授業終了後に質問をお受けします。
課題に対するフィードバック方法	ミニレポートは返却し、授業内で特筆すべき点を指摘して共有することでフィードバックとする。

講義科目名称： 教育課程総論（保育の計画と評価）

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Curriculums (Childcare Planning and Evaluation)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			
授業形態：講義	ナンバリング：EEM3232101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 幼児教育機関・施設における教育課程や保育の全体的な計画が有する役割・機能・意義について理解する。</p> <p>(2) 教育課程の基本原則と実践に即した教育課程、保育の全体的な計画の方法を理解する。</p> <p>(3) 領域、年齢を踏まえた教育課程を把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p>
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として編成されている教育課程及び保育の全体的な計画について、その意義や編成の方法を理解する。さらに、幼児教育機関・施設の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。</p> <p>また、幼稚園において教員経験のある者が、その経験を活かし、実際の資料（教育課程や指導計画）を活用し、教育課程や全体的な保育計画について、資料や実例などを通して具体的に解説する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、カリキュラムの基礎理論と関連法規 カリキュラムの役割と関係法規について 【事前学習】 幼児教育における3法令と関連法規(教育基本法・学校教育法・児童福祉法・) などから、幼児教育施設の目的・目標、カリキュラムなどについて調べ、まとめてくること。</p> <p>第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児教育のガイドラインの意義と関連法規について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから、各乳幼児教育施設の教育・保育の基本について調べ、まとめてくること。</p> <p>第3回 幼稚園教育要領と教育課程、指導計画（カリキュラム・マネジメント） 幼稚園教育要領と教育課程、指導計画について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから、幼稚園教育要領の位置づけと教育課程、指導計画について調べ、まとめてくること。</p> <p>第4回 幼稚園教育要領と教育課程と指導計画（カリキュラム・マネジメント）について、まとめる。 保育所保育指針と保育の全体的な計画 保育の全体的な計画について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから、保育所（園）における保育所保育指針の位置づけと保育の全体的な計画について調べ、まとめてくること。</p> <p>第5回 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の全体的な計画について、まとめる。</p> <p>第6回 教育課程と指導計画 教育課程と指導計画について 【事前学習】 テキスト（第1章）や幼児教育のガイドラインなどから教育課程の意義と役割、考え方について調べ、まとめてくること。</p> <p>第7回 教育課程と指導計画の考え方について、まとめる。</p> <p>第8回 教育課程の編成 幼稚園における教育課程の編成について 【事前学習】 テキスト（第6章）や幼児教育のガイドランなどから教育課程編成の基本について調べ、まとめてくること。</p> <p>第9回 幼稚園教育要領を参考に教育課程の編成について5つ視点で整理し、具体的な手順について調べ、まとめる。</p> <p>第10回 教育課程と保育の全体的計画に基づく指導計画と評価の意義 保育の全体的計画と評価について 【事前学習】 テキスト（第7章）や幼児教育のガイドランなどから教育課程、保育の全体的計画の評価・改</p>

	<p>善について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 教育課程と保育の全体的計画に基づく評価・改善の考え方について、まとめる。</p>
第8回	<p>保育の全体的な計画と指導計画（カリキュラム・マネジメント） 保育の全体的な計画と指導計画（カリキュラム・マネジメント） 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから、保育の全体的な計画とカリキュラム・マネジメントについて調べ、まとめてくること。 【事後学習】 保育の全体的な計画と指導計画の考え方について、まとめる。</p>
第9回	<p>保育の全体的な計画の編成 保育の全体的な計画の編成について 【事前学習】 テキスト（第9章）や幼児教育のガイドラインなどから保育の全体的な計画の編成について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 保育の全体的な計画の編成について、まとめる。</p>
第10回	<p>長期の指導計画の作成の実際と作成上の留意点 長期の指導計画の作成の実際について 【事前学習】 テキスト（第8・9章）や幼児教育のガイドラインなどから長期の指導計画について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 長期の指導計画作成上の留意点について、まとめる。</p>
第11回	<p>短期の指導計画の作成の実際と作成上の留意点 短期の指導計画の作成の実際について 【事前学習】 テキスト（第4章・5章）を参照し、発達年齢に応じた教材研究を踏まえ、短期の指導計画（部分案）作成してくること。 【事後学習】 短期の指導計画作成上の留意点について、まとめる。</p>
第12回	<p>保育の省察及び記録の意義 保育の省察及び記録の意義について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどからPDCAサイクルと省察について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 保育の省察及び記録の意義について、まとめる。</p>
第13回	<p>幼稚園教諭・保育士及び幼児教育施設における自己評価 幼児教育施設における保育者の自己評価について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから保育者の自己評価について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 幼児教育施設における保育者の自己評価について、まとめる。</p>
第14回	<p>カリキュラム評価の基本 カリキュラム評価の基本について 【事前学習】 テキスト（第7章）や幼児教育のガイドラインなどからカリキュラム評価の基本について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 カリキュラム評価の基本と評価を踏まえたカリキュラムの改善について、まとめる。</p>
第15回	<p>生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録 幼児期から児童期へ子どもの育ちの資料について 【事前学習】 幼児教育に関する文献や幼児教育のガイドラインなどから子どもの育ちを支える資料について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録、幼保連携型認定こども園園児指導要録について、まとめる。</p>
第16回	定期試験
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 事前学習内容を、グループでアクティブ・ラーニングをする。 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>教育課程総論（小田豊・神長美津子、北大路書房）2009年 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）フレーベル館 幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）フレーベル館</p>
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）フレーベル館</p>

	保育所保育指針解説（平成30年2月 厚生労働省）
評価方法	定期試験（80%）、課題（20%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	事前学習を踏まえて受講すること。 部分指導案作成を求める。部分案内容に関する教材研究を課す。
オフィスアワー	毎週月曜日：昼休み 赤嶺研究室
課題に対するフィードバック方法	講義内に返却する。

講義科目名称： 教育の方法・技術

授業コード：

英文科目名称： ・Educational Method and Technology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
米盛 徳市			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232151		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	受講者は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な生きる力を育む。教育方法や情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する。
授業の概要	受講者は到達目標とテーマを達成するにあたり既存の各種教育メディア（白板・電子黒板、印刷教材、視聴覚教材、教材教具、Web教材等）の教育効果を理解しつつ、進化する情報機器・ICT技術に対する苦手意識を克服し、教育目標の達成、より効果的な技能・技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼稚園教育・保育所保育における「教育方法と技術」とは何か</p> <p>『事前学習』 授業用ホームページの確認</p> <p>(オリエンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な生きる力をはぐくませる。 ・評価方法はルーブリックに示す、1.知識理解 2.思考判断 3.関心意欲 4.態度の面から総合的に行う。 ・クリティカル・シンキングによる評価察は PDCA (Plan/Do/Check/Act), 5W1H (When, Where, Who, What, Why, How) 喜怒哀楽、起承転結などの視点から行う。 ・授業用ホームページの確認、各人の自己紹介、連絡方法、質疑応答、その他。 <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認と第2回目の授業の内容を把握する。</p> <p>第2回 教育技術について (情報機器及び教材の活用)</p> <p>『事前学習』 第2回目の授業の内容をネットで把握する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法や情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する意識を高める。 2. 自らの課題 (テーマ) を達成するにあたり初等教育現場の各種教育メディア (白板・電子黒板、印刷教材、絵本・紙芝居、視聴覚教材、教材教具、インターネット教材等) の教育効果を理解を高める。 3. テーマの背景は日常生活、例えば楽しい園庭での遊び、ピクニックの思い出、絵本の読み聞かせ、遊戯、文字学習、お絵かき (動物、笑った顔、泣いた顔、怒った顔、友達の似顔絵) など、家族の似顔絵など。 4. 近年の進化する情報機器・ICT技術に対する苦手意識を克服できるよう幼児教育のレベルに合わせた教育目標により効果的な技能・技術を習得する意識を高める。 5. ホームページ上に準備した事例を紹介する。 <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認と第3回目の授業の内容を把握する。</p> <p>第3回 大学内のインターネット環境、PC環境、情報教育メディアの整備状況、利用可能なソフト、既存の電子教材データベース、利用技術について</p> <p>『事前学習』 第3回目の授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット環境 (UserID, Password, 大学のホームページ, web検索、情報倫理等) 2. PC環境 (Windowsのバージョン、装備されたハードウェア環境、ネットワーク環境等) 3. 情報教育メディアの整備状況。 4. 利用可能なソフトウェア、電子教材データベース。 5. 講義用に準備した利用技術マニュアル (Word, PowerPoint, お絵かきツールPaint) 紹介。 6. ワードプロソフトWordを用いて保護者への案内文を作成する。Wordソフトの基礎基本を学ぶ。 7. お絵かきツールPaintを用いて笑った顔、泣いた顔、怒った顔、友達の似顔絵を描く。Paintソフトの基礎基本を学ぶ。 <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p> <p>第4回 笑顔があふれるクラスづくり (例) の教材を考える 指導案の作成 (Word, PowerPoint)</p> <p>『事前学習』 第4回目の授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サンプル指導案をもとにWordソフトの発展的な活用を考える。 2. サンプル指導案をもとにPowerPointソフトの発展的な活用を考える。 3. サンプル指導案を練り直し指導案の文書表現の充実を深める。 4. クリティカル・シンキングの立場から指導案にいかん PDCA (Plan/Do/Check/Act), 5W1H (When, Where, Who, What, Why, How)、提案場面話題の一貫性・起承転結を持たせるかなどの面から意識の高揚を図る。 <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>

第5回	<p>笑顔があふれるクラスづくり(例)の教材を考える 既存の作品参照 (Web検索を含む) 『事前学習』 第5回目の授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のホームページ上で準備した既存の作品を紹介し新たなアイデアを追加する。 2. インターネット上のWeb検索でアイデアを追加する。 3. クリティカル・シンキングによる評価は、提出課題の作品・指導案・プレゼンテーション・模擬保育から <p>いかに 提案場面の一貫性・起承転結が明確であるかを再確認しながら実習を行う。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第6回	<p>笑顔があふれるクラスづくり(例)の教材を考える ミニ読み聞かせ (PowerPoint) 『事前学習』 第6回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPointのアニメーションツールを利用し、動く絵本をイメージしたミニ読み聞かせを行う。 2. 動画や音楽も組み合わせてみよう。 3. どのタイミングで行えば効果的なツールになるか考えてみよう。 4. 発表時間は10分程度、PowerPointで焼く10画面を意識させ、自習を進める。 <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第7回	<p>どのような教育テーマで指導案をどう作成するかー目標と評価の工夫 『事前学習』 第7回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・「笑顔があふれるクラスづくり(例)」には数多くの場面がある。そこでプレゼンテーションのテーマに的確なテーマ(タイトル)を再検討する。 ・子どもたちの興味・関心を高めて目がかがやくような教育テーマにする。 ・学習内容(場面)を10画面程度で「起承転結」を明確にしているか確認する。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第8回	<p>幼児教育・保育に活かすためにどのような教育技術を選択するか 『事前学習』 第8回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の作成・見直し。先生からのアドバイスを得よう。 ・自分自身の知恵と教育の技術力を発揮するにはどのような選択を行えばいいか考える、 ・効果的な方法は何かを選択しよう。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第9回	<p>幼児教育・保育に活かすためにどのように情報機器・ICTを活用するか 『事前学習』 第9回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の作成・見直し。先生からのアドバイスを得よう。 ・自分自身の今後の教育活動が発展的に進化するための情報機器・ICT活用も考え夢を描きながら発表内容を準備しよう。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第10回	<p>情報機器・ICTを活用した教材の研究 『事前学習』 第10回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の見直し。先生からのアドバイス。 ・自学自習の継続、質疑応答</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第11回	<p>情報機器・ICTを活用した教材の作成 『事前学習』 第11回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の作成。先生からのアドバイス。 ・自学自習の継続、質疑応答</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第12回	<p>情報機器・ICTを活用した教材の完成・評価 『事前学習』 第12回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の完成。先生からの評価。 ・最終指導案をもとにプレゼンテーション(模擬保育)を行う。 ・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価を提出。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第13回	<p>指導案をもとにプレゼンテーション(模擬保育) 『事前学習』 第13回目授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・最終発表の準備・教材の完成。先生からの評価。 ・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価評価を提出。</p> <p>『事後学習』 授業のミニ課題の提出確認を行う。</p>
第14回	<p>評価から指導を見直してみよう 『事前学習』 第14回授業の内容をあらかじめネットで把握する。</p> <p>・未発表の方は指導案をもとにプレゼンテーション(模擬保育)</p>

	<p>・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価評価を提出。</p> <p>『事後学習』 最終課題の提出確認を行う。 諸作品の完成・最終提出 『事前学習』 授業の内容をあらかじめネットで把握する</p> <p>・諸作品の完成・最終提出 ・まだの方は指導案をもとにプレゼンテーション（模擬保育）</p> <p>『事後学習』 最終課題の提出確認を行う。</p> <p>第15回</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】提出課題のテーマに対しお互いでアクティブ・ラーニングを行う。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目【○】ネット上に掲載した作品の無断な利用など著作権をの理解を高める。</p> <p>3) ICTの活用【○】急速に進展するICT技術についていけるよう日頃から意識を高める。</p> <p>4) 初年次教育【○】教育目標を立て効果的な技術を習得する</p>
テキスト	<p>Word Excel PowerPoint ステップアップラーニング（定平誠、技術評論社） 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説（平成30年2月 厚生労働省） その他適宜紹介</p>
評価方法	<p>課題及び提出状況（50%）、期末課題（50%）</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【 】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 】4. 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>・実習用パソコンに上では提出課題ファイルが保存できませんので各自のUSBメモリーを持参してください。 ・提出課題ファイルは授業用ホームページにアップロードできます。</p>
オフィスアワー	<p>・授業終了後に質問を受け付けます。電子メールは授業用ホームページに表示してあります。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>・授業用ホームページでも提出課題の状況が確認できますのでご心配ありません。 ・各提出課題の評価等は電子メールでお答えします。 ・質問等のフィードバックは電子メールで行います。</p>

講義科目名称： 幼児理解と教育相談

授業コード：

英文科目名称： Infant Understanding and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232191		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	子ども理解の理論・方法及び教育相談の理論と方法を学び、幼児の発達を支援するために必要な基礎的知識を身に付け、具体的な支援方法を考えることができる。
授業の概要	子ども理解の方法やカウンセリングの基本・技法を踏まえ、事例検討（グループ討議）を通して幼児理解と教育相談の実践について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼児理解と教育相談を学ぶ意義について 幼児理解と教育相談を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】教育相談について調べる。 【事後学習】幼児理解と教育相談を学ぶ意義について、まとめる。</p> <p>第2回 子ども理解と発達理論について 子どもを理解するための発達理論を理解する。 【事前学習】感情・社会性・認知・自我の発達を振り返る。 【事後学習】発達理論をまとめる。</p> <p>第3回 観察・記録の方法と子ども理解の視点 子ども理解のための観察の重要性と記録の方法を理解する。 【事前学習】配布資料（当事者記録・第三者記録）を読み、ポイントをまとめる。 【事後学習】子ども理解の方法（観察と記録）についてまとめる。</p> <p>第4回 気になる子と友達への関わり方（個と集団をとらえる視点）について 気になる子と友達への関わり方を、個と集団をとらえる視点を通して理解する。 【事前学習】配布資料を読み、子ども同士の関わり方を考える。 【事後学習】個と集団をとらえる視点についてまとめる。</p> <p>第5回 カウンセリングに関する理論（カウンセリング理論・精神分析・行動理論）について カウンセリング理論・精神分析・行動理論を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。 【事後学習】カウンセリングに関する理論についてまとめる。</p> <p>第6回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）について カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）を理解する（ロールプレイ）。 【事前学習】第5回のカウンセリング理論について振り返る。 【事後学習】カウンセリングの基本について、ロールプレイで感じたことをまとめる。</p> <p>第7回 カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）について カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）を理解する（ロールプレイ）。 【事前学習】第6回の授業内容を振り返る。 【事後学習】カウンセリングの技法について、ロールプレイで感じたことをまとめる。</p> <p>第8回 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について学ぶ。 【事前学習】教育相談を行う際の目標の立て方や職員間連携について考える。 【事後学習】教育相談の進め方のポイントをまとめる。</p> <p>第9回 事例検討：発達の遅れ・発達障がいのある子への支援について 事例を通して、発達の遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】発達の遅れがある子への支援方法について、ポイントをまとめる。</p> <p>第10回 事例検討：問題行動への対応について 事例を通して、子どもの問題行動への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】問題行動への対応について、ポイントをまとめる。</p> <p>第11回 事例検討：不登園への対応について 事例を通して、不登園への対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】不登園児の支援方法について、ポイントをまとめる。</p> <p>第12回 事例検討：いじめへの対応について 事例を通して、いじめへの対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】いじめへの対応について、ポイントをまとめる。</p> <p>第13回 事例検討：虐待への対応について 事例を通して、虐待への対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】虐待への対応について、ポイントをまとめる。</p> <p>第14回 事例検討：気になる保護者への対応について 事例を通して、気になる保護者への対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。 【事後学習】気になる保護者への対応について、ポイントをまとめる。</p>

	<p>第15回 家庭や専門機関との連携について 家庭や専門機関との連携・協働について理解する。 【事前学習】家庭や専門機関との連携・協働について、これまでの事例から振り返る。 【事後学習】家庭や専門機関との連携・協働のポイントをまとめる。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> グループ討議</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	大野精一（編） 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 その他、担当者が準備します。
参考書	<p>萌文書林、青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林</p> <p>小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林</p> <p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	定期試験40%、事例検討への参加度35%、小レポート15%、受講態度10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	事例検討では、事前に事例を読み、支援方法について考え授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎週水曜日 4限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	小レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。

講義科目名称： 教育実習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称： Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			
授業形態：実習	ナンバリング：EEP3242121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わる。また、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教育者となるための資質・能力を吟味するとともに自己の課題を認識する。教育実習先では、実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的に総合的に理解する。さらに、教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
授業の概要	学校現場での教員経験を有する担当教員が、その実務経験を活かし、教育者としての愛情、使命感、教師の役割等について、また、幼稚園教育要領に示されている内容を、実例の照会と併せて具体的に解説する。さらに、教育内容を把握し教材研究を重ね発達年齢を勘案した、一斉保育の部分指導案を検討し作成する。その一斉保育の部分案に基づいて模擬保育をする。
授業計画	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と目的および実習を臨むにおいての必要な事務手続きと留意事項 ・幼稚園教育の目的・目標と子どもの一日の生活、教師の役割 ・実習の内容と方法の理解、および保育内容の理解と事前計画と教材等の準備 ・一斉保育の保育方法の検討と指導案作成 ・支援を要する幼児の指導 ・教育実習先でのオリエンテーションおよび沿革・教育方針・運営等についての理解（事前訪問） ・幼稚園教育実習先への観察学習（5月15日（水）～5月17日（金））いずれかの日に実習園と調整をして行うこと。 <p>また、支援を要する幼児の有無を確認し、指導の留意点等を把握し、実習までの事前学習</p> <p>教育実習の段階</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察実習 ②参加/部分実習 ③部分/責任実習 ④預かり保育/他 <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌 ・指導案 ・教育実習中間協議会 ・教員による巡回指導と実習園での反省会 <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習反省会 ・個別面談（教育実習の振り返りと自己の課題） ・実習レポート
授業における具体的な特色や方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/>
テキスト	<p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館</p> <p>その他必要な資料は担当者が準備する。</p>
参考書	特になし
評価方法	実習園からの評価資料（40%）、実習日誌（40%）実習レポート（20%）等で総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。実習指導を履修している者。</p> <p>免許取得の関連において後期の開設科目に「保育・教職実践演習」があります。その科目は、自己の課題を認識し教師として最小限必要な資質能力を形成する目的をもった科目です。そのため、幼稚園教育実習後、自己の課題を認識できるようにしておくこと。また、その開設科目に支障がないように幼稚園教育実習を終えてお</p>

	くこと。
オフィスアワー	毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室
課題に対する フィードバック方法	課題は、提出を求め評価後に、授業内で返却します。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称： Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・大城りえ・照屋建太・糸洲理子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEI3252301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	自己の課題を認識し、必要な知識や技能を身につけることができる。 保育者として求められる最小限必要な資質・能力を形成することができる。
授業の概要	これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質・能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習、ロールプレイ等を通して、具体的に学んでいく。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、到達目標とこれまでの学修の振り返り自己の課題の明確化 保育者としての使命感、責任感、教育的愛、社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 これまでの学修（履修カルテ参照）や幼稚園教育実習を振り返り、知識、技能等の課題を明確化する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育実習を振り返り、自己の課題を認識し、この講義で克服したい内容を明確にしておくこと。</p> <p>【事後学習】 保育者の使命感、責任感、教育的愛情 社会性や対人関係能力についてまとめる。</p> <p>第2回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 保育者としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の責務を果たそうとする姿勢について理解する。</p> <p>【事前学習】 保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自分で資料や文献等を探し、何を学びたいのかを明確にしておくこと。</p> <p>【事後学習】 保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、学んだことを振り返りまとめる。</p> <p>第3回 幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレイ） 保育実践の中のカウンセリングマインドについて理解する。</p> <p>【事前学習】 カウンセリングマインドについて調べる。</p> <p>【事後学習】 授業で学んだカウンセリングマインドの要点についてまとめる。</p> <p>第4回 教材・教具等を工夫した指導案作成 教材・教具等を工夫した指導案作成する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育実習で使用した責任実習の指導案について見直しておく。</p> <p>【事後学習】 講義内で指導案について学び、配付したプリントに記入しまとめておく。</p> <p>第5回 幼児理解の発達の特性 発達の特性を理解する。</p> <p>【事前学習】 幼児の発達の特性について学びたいことについて</p> <p>【事後学習】 幼児理解の発達の特性について学んだことについて</p> <p>第6回 保育者の資質・能力 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について理解する。</p> <p>【事前学習】 保育者の資質・能力について、事前に資料や文献などから、何を学びたいのかを明確にしておくこと。</p> <p>【事後学習】 保育者の資質・能力において学んだことについて、まとめる。</p> <p>第7回 支援の必要な子への対応（事例検討） 支援の必要な子について理解し、一人一人を尊重した関わり方について理解する。</p> <p>【事前学習】 事前に配布した資料を読むこと。</p> <p>【事後学習】 支援の必要な子への関わり方の要点についてまとめる。</p>

	<p>第8回 社会性の学び 社会人としての基本（挨拶など）が身についているか、そしてなぜ必要か理解する。 【事前学習】 社会人として必要なことを事前にまとめておく。 【事後学習】 講義内で学んだ社会性について、配付したプリントに記入しまとめておく。</p> <p>第9回 幼児理解に基づいた学級経営 幼児期の発達の特徴をふまえて、学級経営について理解する 【事前学習】 幼児理解に基づいた学級経営において学びたいことについて 【事後学習】 幼児理解に基づいた学級経営において学んだことについて</p> <p>第10回 現地調査（フィールドワーク）・他 自己の課題とする特定の教育テーマで学校現場に向かい調査活動や情報収集を行い資料を作成する。また、自己の特定の教育テーマで資料を作成する。 【事前学習】 自己の課題から教育テーマを精選し、調査活動内容や情報収集内容について、明確にしておくこと。 【事後学習】 自己の特定教育テーマで、なにが、どのような課題なのかに焦点をあて資料を作成する。</p> <p>第11回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導の指導案を作成する。 【事前学習】 自己の課題を認識した模擬保育・場面指導の内容を検討しておくこと。 【事後学習】 自己の課題を認識した模擬保育・場面指導の指導案を作成する。</p> <p>第12回 事例研究・他 特定の教育テーマに関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。 【事前学習】 自己の課題を認識した、教育テーマについて、事例研究発表方法（内容や発表の仕方・他）を準備しておくこと。 【事後学習】 自己の課題を認識した教育テーマについて、何をどのように解決できたのか、また、解決できなかったのかを理論と事例研究を踏まえ、討議内容からまとめる。</p> <p>第13回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導等を行い、グループで討議や意見交換を行う。 【事前学習】 模擬保育・場面指導においては、自己の課題を認識した内容に焦点をあて、シュミレーションをしておくこと。 【事後学習】 自己の課題を認識した模擬保育・場面指導について解決できたこと、また、できなかったことを理論と実践を踏まえ、討議内容からまとめる。</p> <p>第14回 現地調査（フィールドワーク）の事例研究 特定の教育テーマに関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。 【事前学習】 自己の教育テーマに関する、事例研究発表方法について準備をしておくこと。 【事後学習】 事例研究発表で、何をどのように解決することができたのか、また、できなかったことを理論と実践を踏まえ、討議内容からまとめる。</p> <p>第15回 保育者の資質・能力とまとめ（使命感・責任感・教育的愛情） 履修カルテをもとに教員と面談を行う。保育者としての資質能力等について振り返りまとめる。 【事前学習】 これまでの講義内容を振り返り、保育者の資質・能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情についてまとめておくこと。 【事後学習】 保育者の資質能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自己の成長過程（学びの深まり・学びの過程・理解の仕方など）をまとめる。</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/>
テキスト	授業内容に応じて資料を配布 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

参考書	適宜に提供
評価方法	各教員評価 (10点×4人 40点) 模擬保育/場面指導・事例研究・教育研究 (現地調査) などの資料作成および発表 (20点) 自己評価表 (20点) 資料作成と発表の振り返りレポート (10点) 到達目標について (10点)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士 (保育) の学位を授与する。
履修上の注意	幼稚園実習開始前に、実習を終えて自己の課題が認識できるように事前シートを配布する。10月の講義開始前に自己の課題を明確化し、必要な知識や技能を補えるように受講すること。
オフィスアワー	赤嶺：毎週月曜日 (昼休み) 赤嶺研究室 大城：毎週水曜日 (4限目) 大城研究室 糸洲：毎週木曜日 (2限目) 糸洲研究室 照屋：毎週月曜日 (3限目) 照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	赤嶺：課題は、授業内に返却する。 大城：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 糸洲：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 照屋：提出された課題は、講義内にて返却する。